

学術研究推進助成実績報告書 ~~(中間)~~ ~~(完了)~~

平成 26 年 10 月 3 日

公財岡山工学振興会

代表理事 小西 忠孝 殿

(所属機関名) 川崎医科大学循環器内科学

(申請者名) 吉田 清



※研究期間に応じ、報告書の中間・完了のいずれか該当のものを○で囲ってください。

研究題目	虚血性心疾患の病態解明と新しい治療法の開発	
研究期間	H24. 4. 1～H26. 3. 31	
共同研究者	氏 名	所属機関 (職名)
	大倉 宏之 川元 隆弘 根石 陽二 林田 晃寛	川崎医科大学循環器内科学・准教授 川崎医科大学循環器内科学・講師 川崎医科大学循環器内科学・講師 川崎医科大学循環器内科学・講師
研究題目について の研究発表	発表した学協会名と期日	発表した会誌等
		1) Yoshida K : Assessment of mitral valve complex by 3D echocardiography: therapeutic strategy for functional mitral regurgitation. J Cardiovasc Ultrasound., 20: 69-76, 2012 2) Obase K, Yoshida K : Visualization of submitral structure by 3D transesophageal echocardiography. Echocardiography, 30: 945-951, 2013
研究概要	<p>虚血性僧帽弁逆流は予後不良の疾患であり、本症の発症メカニズムの解析や、新しい手術法の開発は、臨床上極めて重要である。3次元心エコー図法は、僧帽弁や僧帽弁下部の詳細な観察に適しており、本法により僧帽弁形成術の術前、術中、術後の評価に重要な情報が得られることが期待される。</p> <p>3次元心エコー図法を用いて、僧帽弁複合体（左室、乳頭筋、腱索、弁尖、僧帽弁輪）の位置を3次的に解析した。個々の虚血性僧帽弁逆流患者において、乳頭筋の変位の程度、弁輪までの距離、乳頭筋の head の数と位置を詳細に分析することにより、術前に乳頭筋のつり上げ術の適応判定が可能であった。さらに、術中に経食道3次元心エコー図法を用いてモニターすることで、人工腱索の長さかつり上げの程度を決定し、虚血性僧帽弁逆流を制御することが可能であった</p>	